

## 沖縄県におけるレンタカー業界の動向

### 【要 旨】

県内レンタカーは、利用者のほとんどを占める入域観光客の増加に伴い許可車両台数を伸ばしており、10年前と比較すると約4倍の車両数となっている。特にここ3年は約1.8倍と著しく増加しており、現在の市場規模は約200億円になると推察される。レンタカー許可車両数と入域観光客数のそれぞれの1996年の数値を100とした場合、06年にはレンタカーが405、入域観光客数が163となっており、レンタカーは入域観光客数の増加率を大きく上回っている。

増加の要因としては、団体旅行から個人旅行へのシフト、レンタカー付のフリープラン型のパッケージ旅行の増加などが挙げられる。

これに併せて、旅行エージェントとの取引の多い大手のレンタカー事業者が車両数を大幅に増加させており、ここ3年の許可車両数の大幅な増加要因になっているとみられる。

その他の増加要因として、インターネットによりレンタカーの情報が入手しやすくなり予約が容易になったことや観光客のリピーター率が高まり、これらの客のレンタカー利用の割合が高くなったことが挙げられる。

また、レンタカー事業の規制緩和が進み、許可要件が簡素化されたことから新規参入する事業者が増えたことも車両数が増加した要因となっている。

レンタカーの稼動状況は、98年度から01年度までは低くなる傾向がみられたが、02年度は増加に転じ、その後概ね安定して推移している。要因として、先述したように団体旅行から個人旅行へのシフトにより、移動手段としてレンタカーの利用率が大きく増加していることが挙げられる。

利用者からの要望として、カーナビ情報の更新や交通渋滞の解消、道路標識の整備などが挙げられている。今年に入っても入域観光客数は好調に推移し、レンタカーの稼動も堅調に推移しているものとみられる。レンタカー業界並びに行政等は多くの観光客が安心してレンタカーを利用できるように、これらの課題の解決に早急に取り組んでいく必要がある。

1. はじめに

沖縄県のレンタカーの許可車両数は、利用者のほとんどを占める入域観光客の増加に伴い増え続け、10年間で約4倍になるなど、入域観光客の増加を大幅に上回る増加率となっている。以下、県内レンタカー業界の最近の動向についてみていくこととする。

2. 県内レンタカーの概況

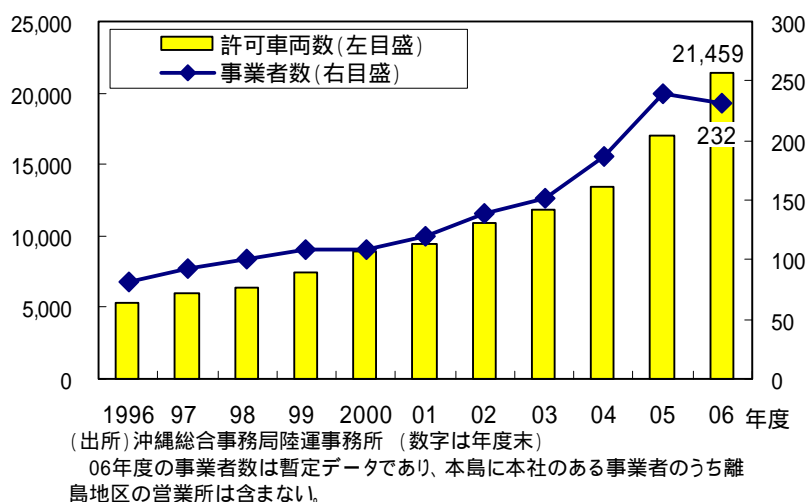
許可車両数の推移

県内レンタカーの許可車両数は、10年前の1996年度末には5,298台となっていたが、2006年度末には21,459台と約4倍に増加した。特に、03年度末には11,895台であったのが、06年度末までの3年間で約1.8倍になるなど、この3年間に大幅な増加がみられた。

事業者数についても96年度末には82事業者あったものが、06年度末には232事業者(ただし06年度末は暫定データであり、本島内に本社のある事業者のうち離島地区の営業所は含まない)と大きく増加している(図表1)。

また、以前公表されていた県内レンタカーの総貸渡料金は01年度で約89億1,000万円(沖縄総合事務局陸運事務所調べ)となっており、単純計算すると現在の市場規模は約200億円になるものと推察される。

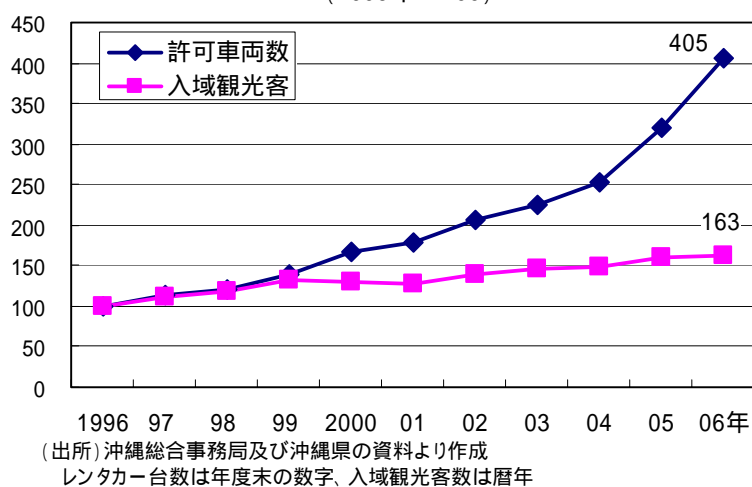
(図表1) レンタカーの許可車両数と事業者数の推移



入域観光客数の増加率との比較

県内レンタカーの利用者のほとんどは入域観光客を中心とした県外客が占めており、入域観光客の増加に伴い許可車両数は伸び続けているものの、レンタカーの増加率は入域観光客の増加率を大きく上回って推移している。96年のレンタカー許可車両数と入域観光客数をそれぞれ100とした場合、06年のレンタカー許可車両数は405となっているのに対し入域観光客数は163となっており、このことからレンタカーの許可車両数の伸び率は大きいことがわかる(図表2)。

(図表2) レンタカーの許可車両数と入域観光客数の推移  
(1996年 = 100)



### 3. 許可車両数の増加要因

#### 旅行形態の変化

このようにレンタカー台数が増加を続けている要因として、まず団体旅行から個人旅行への旅行形態の変化が挙げられ、これに併せて、フリープラン型のパッケージ旅行商品も増えてきている。沖縄県が実施している「航空乗客アンケート調査」によると、全体に占める個人旅行の割合は、2000年度の20.6%から06年度の32.1%と増加しており、フリープラン型のパッケージ旅行も2000年度の28.4%から06年度の40.3%へと増加するなど、個人型の旅行形態にシフトしていることがわかる(図表3)。

(図表3) 県外客(外国人客を除く)の旅行形態

	2006年度	2003年度	2000年度
団体旅行(地域や職場、学校など)	19.4%	24.6%	37.7%
観光付きのパッケージ旅行	8.2%	9.4%	13.3%
フリープラン型のパッケージ旅行	40.3%	37.8%	28.4%
個人旅行(交通・宿泊等を別々に手配)	32.1%	28.2%	20.6%

(出所) 沖縄県「航空乗客アンケート調査」

また、フリープラン型のパッケージ旅行にはレンタカー付の旅行商品も多くみられ、これに併せて、旅行エージェントとの取引の多い大手のレンタカー事業者が車両数を大幅に増加させており、ここ数年の許可車両数の大幅な増加要因になっているとみられる。

このような旅行形態の変化により、県外客(外国人客を除く)の県内での移動手段についても変化がみられ、沖縄県の「航空乗客アンケート調査」によると、97年度はバス50.2%、タクシー25.8%、レンタカー19.2%であったものが、03年度はレンタカーが41.5%とバスの39.4%を上回るなど最も多く利用されるようになり、06年度は50.1%とほぼ半数がレンタカーを利用している(図表4)。

(図表4) 県外客の移動手段(複数回答)

	2006年度	2003年度	1997年度
レンタカー	50.1%	41.5%	19.2%
タクシー	34.3%	38.9%	25.8%
バス(観光バス、路線バス等)	26.3%	39.4%	50.2%
モノレール	24.4%	15.3%	-

(出所) 沖縄県「航空乗客アンケート調査」

#### その他の要因

その他の増加要因として、インターネットの普及によりレンタカーの情報が事前に入手しやすくなり、インターネットでの予約が容易になったことでレンタカーが利用しやすくなったことや県内を訪れる観光客のリピーター率が増加しており、これらのリピーター客はレンタカーを利用する割合が高くなる傾向があることなどが挙げられる。

また、レンタカー事業の規制緩和が進み、駐車スペースや保険等の要件が整っていれば許可が下りやすくなったことなどから新規参入する事業者が増えたことも許可車両数が増加している要因となっている。

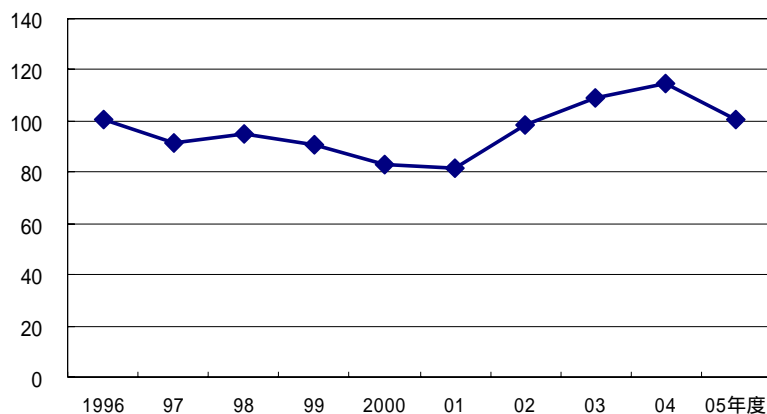
#### 4. 稼働状況について

このようにレンタカー台数は増加を続けているが、年間の延貸渡回数を許可車両台数で割った数字で1台当たりの年間の稼働回数をみると、01年までは下がる傾向がみられたが、02年度は増加に転じ、その後概ね安定して推移している(図表5)。事業者へのヒアリング調査などでも、競争の激化はあるものの、需給状況は概ね安定して推移しているようである。

レンタカーの増加率が入域観光客の増加率を大きく上回っているのに対し稼働回数が安定して推移している要因として、先述したように団体旅行から個人旅行へのシフトにより、移動手段としてレンタカーの利用率が大きく増加していることが挙げられる。

また、貸渡単価は低下傾向がみられるものの、ここ数年は落ち着いた動きをみせているようである。

(図表5) レンタカーの1台当たりの年間の稼働回数



(出所) 沖縄総合事務局陸運事務所の資料により作成  
延貸渡回数 / 許可車両台数にて算出(乗用車のみ)

#### 5. 要望、課題等について

上記でみてきたように、県内レンタカーの許可車両数の増加率は、入域観光客の増加に加え、旅行形態の変化によりバス等での移動からレンタカー移動へのシフトなどにより、入域観光客の増加率を大幅に上回っている。また、近年は、利用者の様々なニーズに応えようと、高級外車やバイクなどを取り扱うレンタカー事業者もみられるようになってきている。

一方、利用者からはいろいろな要望や改善してほしいことなどが寄せられている。「観光客満足度調査」(沖縄県)によると、まず、カーナビ情報の更新をしてほしいとの要望が挙げられている。カーナビの情報が古く新たな施設、道路が整備されてもカーナビ情報に掲載されていないケースが多々みられるようである。その他には、交通渋滞の解消(特に那覇市内)や道路標識の整備などを求める意見があった。

今年に入っても入域観光客数は好調に推移しており、レンタカーの稼働も堅調に推移しているようである。レンタカー業界並びに行政等は多くの観光客が安心してレンタカーを利用できるように、これらの課題の解決に早急に取り組んでいく必要がある。

(以 上)